

ミュージカル学科

2年次生

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヴォーカル実技レッスン III
担当講師名	松山 由佳
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルはクラシック、ロック、ソウル、ポップス等、様々なジャンル要素を併せ持っています。そして、それらを歌うためには、正しい知識のインプット、無理のない発声と歌唱力、豊かな表現力が必要になります。ヴォーカルレッスンではそれらをマンツーマンで勉強していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1クォーターは、基礎固めを確実なものにしていきます。2クォーターは、オーディションに必要な技術と精神力、そして得意なレパートリーを増やしていく事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① テンポ、リズム、音程、音楽記号等を正確に歌唱、譜読みの正確度をあげます。
- ② 基本姿勢での発声を安定させ、動きをともなった発声でも安定感を持たせます。
- ③ チェンジをスムーズに移行し、さらに広い音域をめざします。
- ④ 感情を声にのせるブレスコントロールの自由度をあげていきます。
- ⑤ クリアな発音で自然な言葉のまとまりがあるメロディラインをめざします。
- ⑥ 役柄を理解し、身体表現も含め「魅せる」歌唱法を学びます。
- ⑦ 選曲した試験曲を歌唱し、講師からフィードバックをもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

任意の1曲を歌唱します。

前向きな姿勢、日々の練習の度合い、理解力、その積極性や向上心、そして習得した内容が実践できているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 過去の外部オーディション曲を歌ってみます。（レッスン曲は課題曲群より選択）
- ⑨ 要求されるレベルを理解し、活舌、ピッチ等のブラッシュアップを目指します。
- ⑩ 要求される役柄を理解し、表現の幅を広げます。
- ⑪ 役柄や表現が更にリアルなものになるように歌いこみます。
- ⑫ 伴奏音源を使ったオーディションを想定し、音源を使った歌い方を学びます。
- ⑬ 様々なジャンルの中からレパートリーになる曲を練習します。
- ⑭ デモ曲の録画を想定し、レッスン内で録画、客観的に全体を構成する力をつけます
- ⑮ 任意の1曲を、オーディションを想定して歌唱します。

期末試験評価方法・評価基準

課題曲群などより任意の1曲を歌唱します。

前向きな姿勢、日々の練習の度合い、理解力、その積極性や向上心、そして習得した内容が実践できているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

特記事項

授業は対面式マンツーマンで行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔レッスンで対応いたします。教材となる楽譜、音源などはグーグルドライブで共有し使用できます。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヴォーカル実技レッスン IV
担当講師名	松山 由佳
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルはクラシック、ロック、ソウル、ポップス等、様々なジャンル要素を併せ持っています。そして、それらを歌うためには、正しい知識のインプット、無理のない発声と歌唱力、豊かな表現力が必要になります。ヴォーカルレッスンではそれらをマンツーマンで勉強していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3 クォーターは、学内オーディション、外部エンターテイメントオーディションに必要な技術をつけていきます。4 クォーターは、劇団オーディションに向けて、自己プロデュースしていく事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学内オーディション曲を選択します。
- ② 1曲を歌いきる集中力とエネルギー配分を学びます
- ③ オーディションのフィードバックを理解し、弱点克服をめざします。
- ④ テーマパークオーディションを想定し、アップテンポな曲をクリアな活舌、明るい声で歌えるようにします。（課題曲群より選択）
- ⑤ 更にポップスなジャンル感を持ちつつ、ミュージカル要素のある歌唱を目指します。
- ⑥ 身体表現も含め「魅せる」歌唱法を学びます。
- ⑦ 選曲した試験曲を歌唱し、講師からフィードバックをもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

任意の1曲を歌唱します。
前向きな姿勢、日々の練習の度合い、理解力、その積極性や向上心、そして習得した内容が実践できているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 各劇団オーディションを想定し、過去の課題曲に取り組みます。
- ⑨ 正確に譜読みし、スピーディーに自分の中に落とし込みます。
- ⑩ 劇団の特徴を理解し、要求される活舌、ピッチ等の基礎力アップを目指します。
- ⑪ 劇団の作品を理解し、要求される役柄を考え、表現の幅を広げます。
- ⑫ 身体表現も含め、シーンを演じるように歌うことを練習します。
- ⑬ 本番を想定し、緊張感を持ちつつ暗譜で集中して歌うトレーニングをします。
- ⑭ 2年間で学んだ全てをコントロールできるよう繰り返し練習します。
- ⑮ 任意の1曲を試験曲とし、暗譜歌唱します。

期末試験評価方法・評価基準

課題曲群などより任意の1曲を歌唱します。

前向きな姿勢、日々の練習の度合い、理解力、その積極性や向上心、そして習得した内容が実践できているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

特記事項

授業は対面式マンツーマンで行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔レッスンで対応いたします。教材となる楽譜、音源などはグーグルドライブで共有し使用できます。

学科名	ミュージカル学科
科目名	シアターダンスⅢ
担当講師名	井上 仁司
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ミュージカル作品に数多く出演し、劇団四季でも指導中の実務経験がある講師が担当します。

授業内容

ブロードウェイミュージカルの歴史を学びながら、代表的な作品の振付スタイルと作品に込められたメッセージを掘り下げ、ミュージカルナンバーの習得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

代表的なミュージカルナンバーを習得することで、オーディション対策において圧倒的なスキルが身に付き、将来、演出家、振付師などのクリエイター、インストラクターなどの指導者になれます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ジェロム・ロビンス作品から「ウエストサイド物語」の概要を学びます。
- ② 「ウエストサイド物語」からクール、アメリカの振付を学びます。
- ③ 振付に自信のキャラクターを乗せ、シーンを作り上げていきます。
- ④ マイケル・ベネットの作品から「コーラスライン」の概要を学びます。
- ⑤ 「コーラスライン」から一幕市場、オーディション、アイホープ・ガットイットの振付を学びます。
- ⑥ 振付に自信のキャラクターを乗せ、シーンを作り上げていきます。
- ⑦ 1年次に配布したテキストをもとに試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

欠席率、授業態度、試験結果などから総合的に評価します。

欠席率 30%,授業態度 30%,試験結果 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 秋公演で発表する演目の準備に入り、そのナンバーの概要を学びます。
- ⑨ 振付を開始するとともに立ち位置などの確認を進めていきます。
- ⑩ 衣装を着けてのリハーサルをはじめ、衣装のさばき方や、見え方を学びます。

- ⑪ ナンバーで使用する小道具を準備します。道具のさばき方や、音に合わせての使いかたを学びます。
- ⑫ 振り固めを始めます。まだ体に入っていない振付をチェックし重点的に反復練習を繰り返します。
- ⑬ 衣装を着けての最終チェックを行い、照明プランに合わせて立ち位置を確認していきます。
- ⑭ 複数のナンバーを続けて行い、衣装の着替えやマイクの付け替えなどチェックしていきます。
- ⑮ 学内のホールでの発表となります。

期末試験評価方法・評価基準

欠席率、授業態度、試験結果などから総合的に評価します。
欠席率 30%,授業態度 30%,試験結果 40%

特記事項

※授業は基本的に対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。ミーティングに参加、あるいは授業の録画を視聴することで出席となります。Google Classroom にテキストや課題などが添付されます。専用のノートを作成しておくことを薦めます。

学科名	ミュージカル学科
科目名	シアターダンスⅣ
担当講師名	井上 仁司
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

ミュージカル作品に数多く出演し、劇団四季でも指導中の実務経験がある講師が担当します。

授業内容

ブロードウェイミュージカルの歴史を学びながら、代表的な作品の振付スタイルと作品に込められたメッセージを掘り下げ、ミュージカルナンバーの習得を目指します。また、2年間の集大成として卒業公演では作品を発表します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

代表的なミュージカルナンバーを習得することで、オーディション対策において圧倒的なスキルが身に付き、将来、演出家、振付師などのクリエイター、インストラクターなどの指導者になれます。

プロのスタッフと作業時間を共用することで業界での即戦力としての力が身に付きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ボブ・フォッシー作品についての概要を学びます。
- ② 「ダンシン」よりシング・シング・シングの振付を学びます。
- ③ ブロードウェイミュージカルの傑作「ガイズ・アンド・ドールズ」の概要を学びます。
- ④ 「ガイズ・アンド・ドールズ」よりザ・クラップシューターダンスの振付を学びます。
- ⑤ ブロードウェイミュージカルの代表作、「42ndSTREET」の概要を学びます。
- ⑥ 「42ndSTREET」よりオーディションの振付を学びます。
- ⑦ オーディションの振付を習得し、試験で発表します。

中間試験評価方法・評価基準

欠席率、授業態度、試験結果などから総合的に評価します。

欠席率 30%,授業態度 30%,試験結果 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ブロードウェイミュージカルの代表作「キスマー・ケイト」の概要を学びます。
- ⑨ 「キスマー・ケイト」よりトゥー・ダウン・ホットの振付を学びます。

- ⑩ 振付に含まれる複雑な技術、特にペアリングを重点的に反復練習します。
- ⑪ 2年間の集大成となる作品を選び、概要を学びます。
- ⑫ 卒業公演で発表する作品の振付に入ります。メインパートのオーディションを実施します。
- ⑬ 衣装や小道具なども含めナンバーの振り固めに入ります。
- ⑭ 衣装を着けてのリハーサルになります。
- ⑮ 外部のホール、または学内のホールでの発表となります。

期末試験評価方法・評価基準

欠席率、授業態度、試験結果などから総合的に評価します。
欠席率 30%,授業態度 30%,試験結果 40%

特記事項

※授業は基本的に対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。ミーティングに参加、あるいは授業の録画を視聴することで出席となります。Google Classroom にテキストや課題などが添付されます。専用のノートを作成しておくことを薦めます。

学科名	ミュージカル学科
科目名	タップダンスⅢ
担当講師名	生坂昌子
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は舞台、イベントその他出演及び、ダンススタジオ等での振付、指導経験を持ちます。

授業内容

1年で習得したタップの技術をよりレベルアップして色々な音に合わせてタップを踏んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

色々なステップをより速くスムーズに且つ正確に踏める事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①もう1度、ちゃんと音楽と自分が出している音を聞いているかを意識してみましょう。
- ②足だけでなく、身体を使ってリズムを取れているかを意識して音を出してみます。
- ③同じステップでより速い音楽に合わせて踏めるように練習します。
- ④シャッフルとトウの組み合わせのステップを踏みながらターンする練習をします。足を出す方向や身体の軸を意識します。
- ⑤プルバック(ピックアップ)の練習をします。踏み込む体重の掛け方と力を抜くタイミングを覚えます。
- ⑥ジャックナイフの練習をします。重心とシャッフルを出す距離感、方向を覚えます。
- ⑦難しいステップを含んだ短い振りを踊ってみます。

中間試験評価方法・評価基準

短い振りを音楽に合わせて踊ります。ステップが正確で音楽に合っているかどうか、動きがスムーズで美しいかどうかを評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧振付で使いそうなテクニックの組み合わせのステップを練習します。
- ⑨クロスフロアのステップをより速い音楽に合わせて、体重移動がスムーズに出来るように練習します。
- ⑩クロスフロアのステップをカウントを変化させて踏んでみます。同じステップで音楽の合わせ方を変えて変化を感じてみます。
- ⑪ヒールを使ったステップのバリエーションを覚えます。
- ⑫細かく速いリズムを鳴らせるように足を動かす練習をします。
- ⑬色々なステップを使った振付を踊ってみましょう。
- ⑭上半身の動きも意識してアームスの振りも一緒に踊ってみます。
- ⑮1曲の振付を踊ってみます。

期末試験評価方法・評価基準

1曲の振付を音楽の雰囲気や振付のニュアンスも考えながら踊ります。タップをダンスの表現の手段として使えているかを評価します。 出席:30% 平常点:30% 試験:30% その他:10%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	タップダンスⅣ
担当講師名	生坂昌子
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は舞台、イベントその他出演及び、ダンススタジオ等での振付指導経験を持ちます。

授業内容

今まで身に付けた技術をよりレベルアップしていけるように練習をしながら、その技術を表現する手段として使えるように練習していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

タップのダンスとしての表現、リズムの演奏としての音楽的表現の両方を同時に体現できる事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①クランプロールターン、回転しながら細かい音を出す練習をします。
- ②速く細かいリズムも正確に出せるように練習します。
- ③色々なテクニカルなステップを練習します。
- ④タイムステップをカウントの変化で感じ方を確認してみます。
- ⑤クロスフロアのステップでもカウントを変えて感じ方の違いを確認してみましよう。
- ⑥プルバックやウィングのロールステップを練習します。
- ⑦テクニカルなステップを含んだ短い振りを踊ります。

中間試験評価方法・評価基準

テクニカルなステップを含んだ振りを音楽に合わせて踊ります。細かく速いステップを正確に踏みながらダンスとして美しく表現出来ているかを評価します。 出席:30% 平常点:30% 試験:30% その他:10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧テンポの速い音楽で踊ってみましょう。
- ⑨振付の中で細かいリズムを正確にスマートに踏めるように練習します。
- ⑩アクセントを意識して音の強弱等も表現してみましょう。
- ⑪テクニカルな難しいステップをさり気なく入れられるように練習してみましょう。
- ⑫色々な音楽を使ってニュアンスを考えながら踊ってみましょう。
- ⑬自分でステップを考えてアドリブを入れてみましょう。
- ⑭リズムを奏でるという事と身体で表現するという事を一緒に考え感じながら踊ってみましょう。
- ⑮作品としてタップを取り入れて表現してみます。

期末試験評価方法・評価基準

1曲の作品をタップで表現します。音楽としてリズムを鳴らせているかとそのナンバーのテーマを踏まえて踊れているかを評価します。 出席:30% 平常点:30% 試験:30% その他:10%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	シーンスタディⅢ
担当講師名	大谷 美智浩
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は『レ・ミゼラブル』『エリザベート』『MOZART!』等の舞台に出演し、『嗚呼！杉並青年消防団』『花山信吉工務店』『SEMP O』等の演出経験と、70本に及ぶオリジナルミュージカルの執筆経験を持ちます。

授業内容

前期は1学年で習得した基礎技術をさらに磨き上げるため、既成ミュージカルの中からワンシーンを抜粋し、歌唱・ダンス・演技の三点から総合的に学びます。
後期はバリオホールで上演するオリジナルミュージカルの稽古を通して、総合的なスキルアップを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各自で「待つ」から「準備する」への意識改革をさらに続行し、セルフ・マネジメント（自己管理）力を強化します。その上で、シーンを把握しシチュエーションをイメージして、歌唱・ダンス・演技の課題を正確にクリアしたパフォーマンスを目標に定めます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①個人練習して来た課題の成果をオーディション形式で発表します。
- ②発表された配役に基づいて、歌唱指導や振り付けを受けます。
- ③演出された位置関係と動線からミザンセーヌ（場所の力と関係性）を学び、振り付けを覚えてシチュエーションを確認します。
- ④反復練習する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げてシチュエーションの創造を学びます。
- ⑤サジェストされた内容をグループワークで確認します。
- ⑥課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑦チームで課題のワンシーンを発表し、中間試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

各自の意識改革やセルフ・マネジメントを重視し、その上で個人スキルのレベルアップの度合いや、それぞれの苦手な課題へのアプローチ方法とその成果、さらには授業態度・出席状況まで加味して、総合的に評価します。

実技：60%・出席状況：20%・平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

⑧歌唱指導を中心に、歌入り読み合わせや基礎的な振り付けを行って、作品への理解を深めます。

⑨公演に向けたオーディションを行い、緊張感との付き合い方を学びます。

⑩ブロック①の歌唱指導と振り付けを行い、演技を交えた反復練習で各要素を正確にインプットします。

⑪ブロック②の歌唱指導と振り付けを行い、演技を交えた反復練習で各要素を正確にインプットします。

⑫ブロック③の歌唱指導と振り付けを行い、演技を交えた反復練習で各要素を正確にインプットします。

⑬ブロック④の歌唱指導と振り付けを行い、演技を交えた反復練習で各要素を正確にインプットします。

⑭課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。

⑮学期末テストとして通し稽古を行い、それぞれの配役に応じて個人評価します。

期末試験評価方法・評価基準

実技では、与えられた課題の他に、自主性と自由な発想力も重視します。さらに、グループ内での役割認識と貢献度、集団作業としての「創作」への関わり方などを審査し、さらに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

実技：60%・出席状況：20%・平常点：20%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	シーンスタディⅣ
担当講師名	大谷 美智浩
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は『レ・ミゼラブル』『エリザベート』『MOZART!』等の舞台に出演し、『嗚呼！杉並青年消防団』『花山信吉工務店』『SEMP O』等の演出経験と、70本に及ぶオリジナルミュージカルの執筆経験を持ちます。

授業内容

外部オーディションや卒業後の進路についてしっかりと目標を定め、個々の課題を明確にします。その上で、既成ミュージカルのワンシーンを抜粋し、改めて稽古プロセスを再検証する事で、ミュージカル学科卒業生としての見識・スキル・心構えを磨きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

セルフ・マネジメントの強化と個人スキルのレベルアップ、各自の個性と魅力を自分自身で再発見して人真似ではない「自分らしさ」を添えたパフォーマンス等を目指し、ソロパートや台詞の多寡に拘らない「シチュエーションの中での存在」について理解します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①個人練習して来た課題の成果をオーディション形式で発表します。
- ②発表された配役に基づいて、歌唱指導や振り付けを受けます。
- ③演出された位置関係と動線からミザンセーヌ（場所の力と関係性）を学び、振り付けを覚えてシチュエーションを確認します。
- ④反復練習する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げてシチュエーションの創造を学びます。
- ⑤サジェストされた内容をグループワークで確認します。
- ⑥課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑦チームで課題のワンシーンを発表し、中間試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

各自の意識改革とセルフ・マネジメントのレベルを審査します。その上で、それぞれの個人スキルのレベルアップ、苦手課題へのアプローチとその成果、授業態度や出席状況などを加味して、総合的に評価します。

実技：60%・出席状況：20%・平常点：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧個人練習して来た課題の成果をオーディション形式で発表します。
- ⑨発表された配役に基づいて、歌唱指導や振り付けを受けます。
- ⑩演出された位置関係と動線からミザンセーヌ（場所の力と関係性）を学び、振り付けを覚えてシチュエーションを確認します。
- ⑪反復練習する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げてシチュエーションの創造を学びます。
- ⑫チームごとに中間発表を行います。
- ⑬サジェストされた内容をグループワークで確認します。
- ⑭課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
- ⑮チームで課題のワンシーンを発表し、期末試験とします。

期末試験評価方法・評価基準

2年間の総決算として、総合的な基本スキルのレベルを審査します。さらに「セルフ・マネジメント」や「自己発見」、集団創作に関わる姿勢など、ミュージカル学科卒業生として恥ずかしくない見識と心構えを、総合的に評価します。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	演技基礎Ⅲ
担当講師名	北村 毅
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は劇団四季養成所にて「ミュージカル」を総合的に学び、俳優として多くの舞台を経験後、本学にて指導。エンターテインメント業界でも指導者として活躍する実務経験があります。

授業内容

前期は1学年の学習を踏まえて「マイワード」「後頭アタック」「クイックスルー」などのテクニックを応用して長文モノログを学習し、「活字の肉声化」への考察をさらに深めます。後半は秋の学科公演を題材とした「創造の過程」を総合的に学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「活字から解放された演技」が身につきます。
自由でありながら「コントロールされた演技」ができるようになります。
商業演劇や劇団などで即戦力となる力が身につきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「歩く」エクササイズを体験することで筋肉のメカニズムを体験し、モノログブロック①のフレージングを行います。
- ②「見る」エクササイズを体験することによって筋肉のメカニズムを体験し、モノログ②のフレージングを行います。
- ③「聴く」エクササイズを体験することによって筋肉のメカニズムを体験し、モノログブロック③のフレージングを行います。
- ④エクササイズの総まとめとして「無言劇」エクササイズを体験し、モノログブロック④のフレージングを行います。
- ⑤各4ブロックを通して演じ、撮影して記録に残します。
- ⑥各自の演技の記録を視聴し、確認してリフレクション（振り返り）を行います。
- ⑦「活字からの解放」を目指して長文モノログを発表し、リフレクションシートを作成します。

中間試験評価方法・評価基準

実技では読解力を重視します。ただ台詞を覚えるだけでなく、内容の理解度とその理解した内容を表現するための創意工夫、さらには筋肉の解放と精神の集中を審査し、そこに授業態度、出席状況を勘案して総合的に評価します。

実技：60%,授業態度 20%,出席状況 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧秋公演の作品についての脚本分析を行います。作品の持つ世界観やテーマを確認します。
- ⑨「後頭アタック」「フレージング」を行いながら、さらに脚本の理解を深めます。
- ⑩ブロック①のミザンセーンを学び、実際に作り上げていきます。
- ⑪ブロック②のミザンセーンを学び、実際に作り上げていきます。
- ⑫ブロック③のミザンセーンを学び、実際に作り上げていきます。
- ⑬ブロック④のミザンセーンを学び、実際に作り上げていきます。
- ⑭通し稽古をします。
- ⑮本番通りの通し稽古を行い、実技試験とします。

期末試験評価方法・評価基準

実技では与えられた課題へのアプローチの他に、自主性と自由な発想も重視します。さらに集団作業としての「創作」へのかかわり方や意識の持ち方も審査し、そこに出席状況や授業態度を勘案して総合的に評価します。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。

Google Classroom にテキスト、課題が添付されます。

ミーティング授業に参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	演技基礎Ⅳ
担当講師名	北村 毅
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は劇団四季養成所にて「ミュージカル」を総合的に学び、俳優として多くの舞台を経験後、本学にて指導。エンターテインメント業界でも指導者として活躍する実務経験があります。

授業内容

前期・後期とも 2 年間の締めくくりとして位置づけ、まず前期では規制のショートドラマから課題を選択し、稽古を重ねて発表します。後期は各自の人生をドラマチックに語る「MY LIFE」というオリジナルのモノローグドラマを構成し、発表します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

卒業後を見据えて、パフォーマーとしての心構えと基本スキルの習熟を目指します。2 年間で学んだ「マイワード」「語頭アタック」「背面チェック」「クイックスルー」などのテクニックを使って「刺激と反応の関係性」「フレージング」のスキルを磨き上げ、さらに個性魅力の発見を目指し、業界の「即戦力」となります。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① テキストを選択し「脚本分析」を行います。
- ② 「語頭アタック」で言葉のニュアンスやエネルギーを考察し「マイワード」で粗立ち稽古を行います。
- ③ 位置関係を考察し、道具の配置などバランスを考えてイメージを膨らませます。
- ④ 「背面チェック」でテキストワードをしっかりと確認した後、「クイックスルー」で無駄な間を省いて演技の質を高めます。
- ⑤ 各自の演技を撮影しリフレクション（振り返り）を行います。
- ⑥ グループで確認した後、発表を行います。
- ⑦ グループワークのまとめとして「リフレクシーと」を作成します。

中間試験評価方法・評価基準

実技では春学期に学んだスキルの習得度を重視します。「活字の肉声化」の各スキルや「筋肉の開放と精神の集中」並びに集団作業の創造における「役割認識と貢献度」、さらに授業態度や出席状況を勘案して総合的に評価します。

実技：60%,授業態度 20%,出席状況 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ オーディション対策として当日配布のモノログを分析し、「マイワードや「テキストワード」で発表します。
- ⑨ 模擬オーディションとして、当日配布のモノログを実演します。
- ⑩ モノログの延長として与えられた「テキスト台本」を分析し読み合わせを行います。
- ⑪ 「テキスト台本」をブロックに分けて、読み合わせをします。
- ⑫ 各自のブロックを実演、発表します。
- ⑬ オリジナルモノログの概略を説明し、それぞれの「ライフラインチャート」を作成します。
- ⑭ 各自の「MY LIFE」の作成に入ります。
- ⑮ 集大成として「MY LIFE」を発表します。

期末試験評価方法・評価基準

俳優としての職業にとどまらず、幅広い意味でのパフォーマー、さらには社会人としての心構えとして、「自己発見」と将来の展望を見据えた「セルフマネジメント能力」を重視します。さらに前期・後期のリフレクシートと出席状況を火勘案して総合的に評価します。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。

Google Classroom にテキスト、課題が添付されます。

ミーティング授業に参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルⅢ
担当講師名	若林裕治
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は東宝、ホリプロ、劇団四季、東急文化村等ミュージカル公演およびコンサート（指揮）の実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルには様々なジャンルの楽曲があり、発声方法もそのジャンルに合ったものが必要になります。2年次は、より正確により確実にアンサンブル能力を自分のものにしていきましょう。勿論、楽曲の意図する表現法についても考えていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル能力の向上に必要な知識や情報を理解して、自分で分析と判断をしながら歌唱表現を実践出来るパフォーマーを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①母音と子音の関係。レガート唱法について。
- ②周りの人の音を聞く。同じパートの音を聞き合う為に必要なスキルを身につける。聴き分ける耳を育てる。
- ③他のパートにつられない！違うパートの音を聞くコツについて。前回同様、聞き合う為のスキルを身につけよう！
- ④コードや調の判定。課題曲② 音程を正確に歌う為に身につけたいものについて。覚えておくと便利な調判定法。
- ⑤理論的なアプローチ。楽曲に対して理論的にアプローチを試みる。理論に裏付けられた音楽表現。
- ⑥歌い込み。歌い込むことで出来ること、またその際に気をつけることについて。
- ⑦発表形式の試験（実技試験）

中間試験評価方法・評価基準

毎回のステップアップや到達度確認も評価の対象になっています。また発表では、音程のみならず、発声法の他にそれを使った表現力も評価の対象になります。評価項目（試験結

果 40%、平常点 30%、出席、その他 30%)

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧移動ドでハモる。ア・カペラへの挑戦、自分の音程を自分で確認する。移動ドを理解すると音取りが楽になる！
- ⑨覚えると便利な移動ドで出来ること。音の世界が広がる移動ド理論について考える。
- ⑩ハモる為に必要な知識。平均律と純正律についての理解を深める。
- ⑪アンサンブルの醍醐味は、やはりチームワーク。一人では出来ないことと、一人でやらなければならないこと。
- ⑫歌う？語る？歌い上げる歌唱表現と、喋りや語りをメインにした歌唱表現について考えます。
- ⑬より実践的に、本番を意識したアンサンブル表現。自分自身から発信する自分自身の表現。
- ⑭ステージを意識する。見せ方、聞かせ方の研究。客観的に自分を捉えること。より精度を上げたアンサンブルを目指します。
- ⑮前期のまとめ (実技試験)

期末試験評価方法・評価基準

音の確認、復習は各自が責任を持って行ってください。アンサンブル能力や歌唱力、表現力の裏付けとなる発声法等の理解度をトータル的に評価します。評価項目 (試験結果 40%、平常点 30%、出席、その他 30%)

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヴォーカルアンサンブルⅣ
担当講師名	若林裕治
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は東宝、ホリプロ、劇団四季、東急文化村等ミュージカル公演およびコンサート（指揮）の実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルの歌唱は、ダンス等の動きを伴いながらも正確にそして表情豊かに歌うことが要求されます。秋学期は、今まで学んできたものの集大成として、より実践的なアンサンブルの考え方を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ミュージカルのアンサンブルに必要な能力（音程とリズムを合わせるだけでなく、物語の状況や歌詞の内容からくるニュアンスと抑揚などシチュエーションに合った表現を伴った歌唱パフォーマンス）を身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①春学期での成果と反省を踏まえて秋学期の目標を確認。課題曲の説明。
- ②音楽づくりの理想とは？内容の濃い音楽稽古にする為に必要な情報を集める。時代背景や音楽のスタイルについて。
- ③内容の把握と表現。シチュエーションに合った音楽表現、演じる役の心情を探る。
- ④立ち稽古へ！アンサンブルの基礎の上に成り立つ歌唱表現を身体表現へ繋げる。
- ⑤人前で演じることとは？実際にプロの現場と同じような、立ち稽古を体験しよう。
- ⑥観る側の目線とは？自分を客観的に捉えることの大切さを考えよう！客の目線でどう見える？
- ⑦クォーター末試験。発表形式でのアンサンブル歌唱試験。

中間試験評価方法・評価基準

歌唱力、アンサンブル能力等を十分に生かしたステージを作るには、的確な内容把握や時代背景等も重要になってきます。着実に自分のものにしていきましょう。評価項目（試験結果 40%、平常点 30%、出席、その他 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧新しい目標。プロの現場で通用するアンサンブル能力を身につけよう！
- ⑨音楽稽古①。各自の音楽表現プランを作成。ディスカッション。そして、予習・復習し
っかり！
- ⑩音楽稽古②（最終）。仕上りの正確さの追求！加えて音楽稽古もスピードもアップ。
- ⑪立ち稽古①。体で表現しよう。自分なりの意見（正解）を持つことの大切さを再確認。
- ⑫内容の更なる把握。立ち稽古②。テキストの朗読・表現の確認。
- ⑬歌い込みでより精度をあげよう。慣れは禁物！毎回新鮮な気持ちで！
- ⑭悔いの無いように！もう1度よく見直そう！通し稽古。緊張感を持続させる。
- ⑮一年の総まとめ（実技試験）

期末試験評価方法・評価基準

舞台の上には様々なアンサンブルがあり、ミュージカル曲を題材に乗り越える能力を身に
付け、各自のジャンルで生かす事が目標です。その成果を評価します。評価項目（試験結
果 40%、平常点 30%、出席、その他 30%）

特記事項

学科名	ミュージカル学科
科目名	テーマパークパフォーマンスⅢ
担当講師名	菅 未来
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサンリオピューロランドにてライブエンターテイナーとしてパレードや数々のショーに出演し、ショーの振り付けを担当した実務経験があります。

授業内容

一年次に学んだ事をベースに実際のテーマパークにおけるエンターテイメントを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

グリーティングを学ぶことによりゲストへのプレゼンテーション、インビテーションが理解できるようにしましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ウェルカムグリーティング①(キャラクターの特性)
- ②ウェルカムグリーティング②(プレゼンテーション)
- ③ウェルカムグリーティング③(インビテーション)
- ④スプリングショー①(振り付けを覚える)
- ⑤スプリングショー②(振り付けを覚える)
- ⑥スプリングショー③(フォーメーションを覚える)
- ⑦テスト(グループパフォーマンス)

中間試験評価方法・評価基準

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。授業での積極的な取り組み方が評価されます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧テーマパークダンス①(オープニングナンバーを踊る)

- ⑨テーマパークダンス②(オープニングダンスを踊る)
- ⑩テーマパークダンス③(スタンダードジャズナンバーを踊る)
- ⑪テーマパークダンス④(スタンダードジャズナンバーを踊る)
- ⑫サマーパレード①(ラテンナンバーを踊る)
- ⑬サマーパレード②(ラテンナンバーを踊る)
- ⑭サマーパレード③(グループでフォーメーション)
- ⑮テスト(春学期で学んだ事を発表)

期末試験評価方法・評価基準

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。授業での積極的な取り組み方が評価されます。どれだけテーマパークパフォーマンスが身に付いたかテストされます。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	テーマパークパフォーマンスⅣ
担当講師名	菅 未来
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はサンリオピューロランドにてライブエンターテイナーとしてパレードや数々のショーに出演し、ショーの振り付けを担当した実務経験があります。

授業内容

ショーに出演するように多くのナンバーをイメージ通りに演じます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オーディションや発表会等で自分の持っているパフォーマンススキルを発揮できるようにしましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ハロウィン①(ハロウィンナンバー&MC)
- ②ハロウィン②(ハロウィンナンバー&MC)
- ③ハロウィン③(ハロウィンナンバー&MC)
- ④クリスマス①(クリスマスナンバー&MC)
- ⑤クリスマス②(クリスマスナンバー&MC)
- ⑥クリスマス③(クリスマスナンバー&MC)
- ⑦テスト(6回で学んだ事のまとめ、テスト)

中間試験評価方法・評価基準

出席50%、平常30%、テスト20%で算出されます。授業での積極的な取り組み方が評価されます。また、協調性が求められます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ウィンターショー①(ショーナンバーを踊る)

- ⑨ ウィンターショー②(ショーナンバーを踊る)
- ⑩ ウィンターショー③(ショーナンバーを踊る)
- ⑪ スプリングショー①(ショーナンバーを踊る)
- ⑫ スプリングショー②(ショーナンバーをグループに分かれてフォーメーション)
- ⑬ スプリングショー③(ショーナンバーをグループに分かれてフォーメーション)
- ⑭ スプリングショー④(ショーナンバーをグループに分かれてフォーメーション)
- ⑮ テスト(グループごとに発表)

期末試験評価方法・評価基準

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。授業での積極的な取り組み方が評価されま
す。協調性が求められます。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業
も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。
ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ミュージカル研究 III
担当講師名	松山 由佳
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルは様々な音楽ジャンルの要素を併せ持ち、そして、その作品は歴史的背景、思想民族、宗教など社会的影響を色濃く受けています。この科目は、ミュージカル作品を主に音楽知識の面からアプローチしていく授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1クォーターでは、1980年代のWE作品から90年代のディズニー作品を学びます。2クォーターでは2000年代のミュージカル作品やトニー賞受賞作品などを学習し、知識の裏付けのある俳優になることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 1年次総まとめ小テストを行い、理解の甘い箇所を重点的に授業を行います
- ② 「オペラ座の怪人」のDVDを鑑賞し、ロイドウェバーの音楽のドラマ性とモチーフについて学びます。
- ③ 「ミス・サイゴン」の時代背景、作品とあらすじを勉強します。
- ④ 「ミス・サイゴン」から1曲を選曲し、キャラクターの心情を理解した裏付けのある歌唱を目指します
- ⑤ 「白雪姫」の音楽の特徴、ジャンル感、モチーフやその音楽効果などを検証します
- ⑥ 新しいディズニーサウンドを体感し、アラン・メンケンの作品について学びます。
- ⑦ 実技試験、授業内で学習した曲を歌唱します。

中間試験評価方法・評価基準

授業内の積極性や向上心を測ります。また、実技点としては、作品を理解して実践を試みているかを重要視します。（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 今年度トニー賞の映像を鑑賞しながら、受賞作品、俳優、作曲者などをインプットします。
- ⑨ トニー賞受賞作品、ノミネート作品のあらすじ、登場人物、音楽の特徴を学びます。
- ⑩ トニー賞受賞作品から1曲を選曲、歌ってみます。
- ⑪ 作品、シーンを理解し、キャラクターを考察します。
- ⑫ グループで役柄を決め、アンサンブルを行います。
- ⑬ 音楽の特徴をつかみ、シーンを理解して裏付けのある歌唱を目指します。
- ⑭ グループごとに発表し、作品へのアプローチを深めます。
- ⑮ 実技試験（アンサンブル歌唱）とフィードバックを行います。

期末試験評価方法・評価基準

アンサンブル歌唱試験。グループワークへの積極性や向上心を評価します。また、実技点としては作品を理解してキャラクターを創造し表現しようとしているかを重要視します

特記事項

授業は対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔授業で対応いたします。教材となる楽譜、音源、資料はGoogleクラスルームで共有し、使用できます

学科名	ミュージカル学科
科目名	ミュージカル研究 IV
担当講師名	松山 由佳
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

ミュージカルは様々な音楽ジャンルの要素を併せ持ち、そして、その作品は歴史的背景、思想民族、宗教など社会的影響を色濃く受けています。この科目は、ミュージカル作品を主に音楽知識の面からアプローチしていく授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3 クォーターでは、ドイツ語圏ミュージカルと BW ミュージカル作品との違いを理解し、4 クォーターでは、2 年間で勉強してきた勉強方法を卒業公演演目で実践していきます。演じるために学んだ知識を有効に使えることを目標とします。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① ドイツミュージカルの作品の特徴や作曲家と作詞家とその音楽をインプットします。
- ② 「エリザベート」ウィーン版 DVD を鑑賞し、テーマ、舞台装置、演出効果と音楽の関係を探ります。
- ③ 「ダンス・オブ・ヴァンパイア」舞台版 DVD を鑑賞します。
- ④ 「ダンス・オブ・ヴァンパイア」から「外は自由」を二重唱します。
- ⑤ 「レベッカ」のワンシーンを重唱し、作曲家の音楽的特徴をつかみましょう
- ⑥ 「ルドル〜ザ・ラスト・キス」を歌い、ワイルドホーンのサウンド感を体感します。
- ⑦ 授業で学習した曲から 1 曲選択、歌唱試験をし、その後フィードバックします。

中間試験評価方法・評価基準

授業内での積極性や向上心、小テストの結果を評価します。また、実技試験では、転調や変拍子、不協和音等に振り回されない安定した歌唱と表現を評価します。

（出席点 30% 平常点 40% 試験点 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作品を演じるために必要なミュージカルの知識で作品にアプローチし、ディスカッションします。
- ⑨ アーティキュレーションをインプットし、そこに音楽ジャンル感、キャラクター要素を込めて歌います。
- ⑩ キャラクターに自分の表現をプラスしていき、お互い感じた事を発表します。
- ⑪ 創り上げた人物像が演出の方向性に沿っているか確認しながら進めていきます。
- ⑫ グループに分かれ、構成された全体像を実現していきます。
- ⑬ グループごとに発表し、録画します。
- ⑭ 録画を見ながら、客観的にパフォーマンスの振り返りを行います。
- ⑮ 2年間の授業内で勉強した内容について筆記試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験。授業やグループワークへの積極性や向上心を評価します。また、試験点としては2年間勉強してきた事の総合力を重要視します。

特記事項

授業は対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔授業で対応いたします。教材となる楽譜、音源、資料はGoogleクラスルームで共有し、使用できます

学科名	ミュージカル学科
科目名	コンテンポラリーダンス I
担当講師名	高橋利枝
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師の実務経験（(社)現代舞踊協会主催公演、学校巡回公演、ダンスワークスの国内・海外公演、その他ダンスカンパニーのゲスト出演など）に基づき、現代的な動きを取り入れた自由な表現方法とテクニックを指導します。

(社)現代舞踊協会 協会員

授業内容

自由な表現を生み出すためエクササイズを通して強い身体を育てていきます。上体を自由に使いフロアでの動きも取り入れバレエとは異なる動きを身につけます。マーサ・グラハムの基本エクササイズを中心に身体の芯を感じた動き方を研究します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

動きの原点である、コントラクションとリリースの繰り返しであることを体感して、自由に動くことの楽しさを感じ、表現することが目標です。インプロヴァイゼーション（即興）にも挑戦してゆきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「オリエンテーション」 コンテンポラリーダンスクラスを受講するにあたっての心構えと授業中の注意事項を確認していきます。
- ② 「ロール・アップ+ハイ・アーチ」 グラハムテクニックの基本のフロアエクササイズを行い、上体の使い方を覚えます。
- ③ 「コントラクション+リリース」 グラハムテクニックの基本のフロア+センターでのエクササイズから、上体の使い方と呼吸法、パラレル、イン、アウトを使い分けていきます。
- ④ 「フラット・バック」 背中への使い方に注目して、真っ直ぐな背中とカーブとハイ・アーチの作り方を習得し、呼吸の方法と動きの関係性も考えます。
- ⑤ 「トリプル・ステップス 1」 3拍子で歩く基本エクササイズを行います。上体をしっかり保ったまま、全てのスタンスを広く使って進みます。
- ⑥ 「トリプル・ステップス 2」 引き続きトリプル・ステップスのエクササイズとその変形、歩く、揺れる、上体をつけて大きく動きます。
- ⑦ 「トリプル・ステップスのコンビネーション」 トリプル・ステップスにフロアを

使った動きをプラスして、リズムを感じ、力強い自然な動きが身についているかどうか確認します。

中間試験評価方法・評価基準

マーサ・グラハムの基本エクササイズのルーティンワークの目的を理解できているか。コントラクションとリリースを自然に取り入れて、身体を中心から大きく動くことが出来ているか、コンビネーションを踊り確認し、評価します。

試験 30% 出席 40% 平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「スモールジャンプ」 両脚又は片脚踏み切りからの小さなジャンプの種類を知り、シソンス、アッサンブレの変形や上体も使ったジャンプにも挑戦していきます。
- ⑨ 「ミドル・ジャンプ/ビック・ジャンプ」 グラン・ジュテ、アチチュード・ジャンプ、ア・ラ・スゴンドのジャンプなど空間を感じて大きな跳躍を行います。
- ⑩ 「回転技1」 様々なピルエットに挑戦します。プリエをしたままのターン、上体をつけるターン、上半身と下半身のタイミングを変化させたターンを行います。
- ⑪ 「回転技2」 上体をつけたアチチュード・ターンやアラベスク・ターン、連続した回転のシェネやピケ・ターンの変形を習得します。
- ⑫ 「インプロヴァイゼーション1」 テーマを決めて、動きを創作してみます。身体のひとつのパートから派生する動きや、即興に挑戦します。
- ⑬ 「インプロヴァイゼーション2」 二人組でお互いの力を有効に使った動き方、リフトやサポートの仕方を学んでいきます。
- ⑭ 「コンビネーション」 上体やアームスを自由に使った動き、ターン、ジャンプ、フロアワークを組み合わせて力強い動きと柔らかな動きを創り出します。
- ⑮ 「コンビネーション発表」 グラハムテクニックのまとめとして、コントラクションとリリース、流れるようなフロアワークを使った動きのコンビネーションを発表します。

期末試験評価方法・評価基準

オフバランスやフロアワークの方法を理解して体現することが出来ているか確認します。空間を大きく使い、リズムを感じエネルギーを持続した動きと即興的な動きを習得しているか評価します。

試験 30% 出席 40% 平常点 30%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	コンテンポラリーダンス II
担当講師名	高橋利枝
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師の実務経歴（(社)現代舞踊協会主催公演、学校巡回公演、ダンスワークスの国内・海外公演、その他ダンスカンパニーのゲスト出演など）に基づき、現代的な動きを取り入れた自由な表現方法とテクニックを指導します。

(社)現代舞踊協会 協会員

授業内容

自由な表現を生み出すために動きの動線を研究し体現します。
マース・カニングハムの基本エクササイズを中心に伸びやかでスムーズな動きを研究し、卒業公演に向けてテクニックの向上と表現の幅を広げてゆきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基本エクササイズを積み重ねることにより、より強い体幹を育てることが出来ます。
作品、コンビネーションを踊るにあたってテーマを考え、効果的な動き方、舞台上での在り方、構成の成り立ちなど各々が発見出来ることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「カニングハムの基本エクササイズについて」 カニングハムテクニックの特徴と身体の使い方を学びます。
- ② 「ロール・ダウン+ロール・アップ」 通常ストレッチとは異なる身体の使い方を覚えましょう。
- ③ 「ストレッチ/フロアワーク」 身体の中から動くためのストレッチの方法と身体の内芯を感じた動き方を知り、エクササイズを覚えていきます。
- ④ 「振り子運動」 アームス+上体の動きとステップの関係性を考え、スイングを取り入れた自然な動きを身につけるようにしましょう。
- ⑤ 「スモール・ジャンプ」 身体の内芯を保ちながら、ゆっくりなジャンプ、遠いジャンプ、様々な種類の跳躍に挑戦します。
- ⑥ 「ビック・ジャンプ」 腰の引き上げ方と床の使い方を考え、グラン・パ・ドゥ・シヤの変形や、フラット・バックを保ったままのジャンプなどを身につけます。
- ⑦ 「トリプル・ステップス」 シャッセから始まる3拍子のステップ、上体のカーブの作り方とリリースの動きの組み合わせを取り入れたコンビネーションを踊ります。

中間試験評価方法・評価基準

マース・カニングハムの基本エクササイズのルーティンワークを理解しながら、トレーニングを積み重ねているかどうか、振り子運動を基にしたスムーズで流れるような動きと体重移動を使って踊ることができているかどうか評価します。

試験 30% 出席 40% 平常点 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「卒業制作に向けて1」 コンビネーションを覚え、動きのひとつひとつを発展させてみます。動きのバリエーションを増やすトレーニングをします。
- ⑨ 「卒業制作に向けて2」 動き共に舞台上の踊る方向を変えたり、踊りのタイミングを変えたり等、ステージングの基本を学びます。
- ⑩ 「卒業制作1」 振付を覚え、テーマに沿った動き方、表現方法を考えていきます。
- ⑪ 「卒業制作2」 音の使い方、動きのアクセントを考え、効果的な観せ方を研究し、表現力も身につけていきます。
- ⑫ 「卒業制作3」 振付を再確認し、テクニックを確立します。舞台空間をイメージして踊ることをみにつけます。
- ⑬ 「卒業制作4」 作品を通して個々の特性を活かした動きを考えます。各自の良さを活かして、さらなるクオリティの向上を目指します。
- ⑭ 「オーディションへの対応力をつける」 作品のリハーサルを引き続き行います。それと共に外部のオーディションに必要な対応力を養います。
- ⑮ 「1年間の総合確認」 1年間のまとめとして、舞台上での存在感の出し方、テクニックの確立と各々の表現を発表することができるかどうか確認します。

期末試験評価方法・評価基準

1年間のまとめとして、グラハムテクニック、カニングハムテクニックを基にした全身を使って自由に大きく動く踊り方が出来ているかどうか確認します。

また、作品をまとめる力、即興に対応する力を評価します。

試験 30% 出席 40% 平常点 30%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	演技研究 I
担当講師名	北村 毅
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は劇団四季養成所で「ミュージカル」を総合的に学び、俳優として多くの舞台を経験後、本学にて指導。エンターテインメント業界でも指導者として活躍しています。

授業内容

エチュードやオリジナル・ミュージカルの創作を通してテーマとストーリーの関係、その中での台詞と動作の意味について考察を深め、演技のスキルアップを目指します。またオリジナルドラマをグループで創り上げることで、創造の楽しみと苦労も体験します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「舞台創造の過程」を学び、ショートドラマなどオリジナル作品を作れるようになる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「トラブル」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、各発表を鑑賞し合評会を行います。
- ②「ゴシップ」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、各発表を鑑賞し合評会を行います。
- ③「誤解」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、各発表を鑑賞し合評会を行います。
- ④「すれ違い」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、各発表を鑑賞し合評会を行います。
- ⑤「困惑」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、各発表を鑑賞し合評会を行います。
- ⑥「失敗」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、各発表を鑑賞し合評会を行います。
- ⑦自由課題でグループに分かれてショートドラマを創作し、各発表を鑑賞して合評会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技ではグループ内における自主性や自由な発想力、並びにシチュエーションの表現力、ドラマにおける役割認識、俳優としての個々の魅力などを審査します。そのうえで授業態度、出席状況を勘案して総合的に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧脚本分析①を行います。作品の持つ世界観やテーマを学びます。
- ⑨脚本分析②を行います。「後頭アタック」「フレージング」を行いながらさらに曲本の理解を深めます。
- ⑩立ち稽古に入ります。ブロック①のミザンセーンを学び、確認します。
- ⑪立ち稽古に入ります。ブロック②のミザンセーンを学び、確認します。
- ⑫立ち稽古に入ります。ブロック③のミザンセーンを学び、確認します。
- ⑬立ち稽古に入ります。ブロック④のミザンセーンを学び、確認します。
- ⑭通し稽古になります。様々な「背面チェック」「クイックスルー」などのテクニックを使い無駄な時間を省いて演技の質を高めます。
- ⑮実技試験。通し稽古を行い、それぞれの配役や役割に応じて個人評価します。

期末試験評価方法・評価基準

実技では与えられた課題へのアプローチの他に、自主性と自由な発想も重視します。さらに集団作業としての「創作」へのかかわり方や意識の持ち方など審査し、そこに授業態度や出席状況を勘案して総合評価します。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。ミーティングで授業に参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	演技研究Ⅱ
担当講師名	北村 毅
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は劇団四季養成所で「ミュージカル」を総合的に学び、俳優として多くの舞台を経験後、本学にて指導。エンターテインメント業界でも指導者として活躍しています。

授業内容

オリジナルドラマを週ごとに異なるテーマで探索します。課題は春学期よりもさらに感情的・抽象的な概念へと進み、感情の激しさや心情の奇怪さ、醜悪さにまでも目を向け「人間への考察」をさらに深めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

「人間」「人生」「運命」について考察を深め、抽象的概念と具体的感覚の双方を磨き、シリアスからコメディまでの幅の広い演技を習得して、演技スキルの総合的なスキルアップを目指します。さらにパフォーマーとしての心構えや基本姿勢を学んで、卒業後の活動に備えます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①「笑い」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ②「怒り」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ③「悲しみ」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ④「癒し」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑤「妬み」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞し
- ⑥「恐怖」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑦自由課題でグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。

中間試験評価方法・評価基準

実技ではシリアスやコミカルなシチュエーションにおける表現の幅、画一的な演技を破る独創性、新たな役どころにチャレンジする意欲などを審査します。その上で授業態度・出

席状況を勘案して総合的に評価します。
実技 60% 授業態度 20%,出席状況 20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧「友情」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑨「愛情」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑩「薄情」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑪「痴情」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑫「劣情」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑬「慕情」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑭「無情」を課題にグループに分かれてショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。
- ⑮「実技試験」自由課題でショートドラマを創作し、お互いの発表を鑑賞して合評会を行います。

期末試験評価方法・評価基準

2年間の締めくくりとして、想像力、創作力、演技力を複合的に重視します。過去に身につけたスキルを再確認し、自分たちで作り上げた状況をどれだけ「信じられているか」を審査し、そのうえで授業態度・出席状況を勘案して総合的に評価します。
実技 60%,授業態度 20%,出席状況 20%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。
ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヒップホップⅢ
担当講師名	山崎拓也
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はファッションショーのステージングや舞台の総合振付を担当し、ダンススタジオや大手芸能事務所などでダンス指導を行っている実務経験があります。

授業内容

1年生の時に学んだ事を再確認していきます。常に体全体でリズムを取る事を努力していき、動きに流れを作っていきます。また、ヒップホップダンスをベースにジャズダンスの要素を取り入れたヒップホップジャズも学んでいきジャンルの幅を広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

純粋なレベルアップを目標とします。ヒップホップは得意だけどジャズは苦手、逆にヒップホップは苦手だけどジャズは得意、という事がなくなるようにそれぞれの特性をしっかりと掴み、踊りの幅を広げてジャンルにとらわれる事のないフレキシブルなダンサー像を作っていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①2年生になっても基本的なところか見直していきます。リズムトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上をしていきます。
- ②手、足の処理を中心に表現の仕方を確認していきます。流れが切れてしまう事なく動けるようにしていきます。
- ③上半身、下半身のバランスを考えて正確にステップを踏んでいきます。大きく動いても暴れて見えないようにしていきます。
- ④いかに早く、手先、足の向きなど正確に与えられた振付の意図を理解して覚える力をつけていきます。
- ⑤コンビネーションを覚えたら流れが止まることなく、綺麗な動き、綺麗なダンスを意識して表現できるようにしていきます。
- ⑥手、腕、肩、首の傾き、顔の角度など一つ一つを大事にし尚且つ大きく踊る為にどうするか研究していきます。
- ⑦コンビネーションを覚えて発表をします。基礎能力が上がっているかの確認もしていきます。

中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

振付に対する正確さをポイントとして見ていきます。また、ダイナミックに踊る事が出来ているか、音楽をしっかり聴いて踊っているか、などコンビネーション全体を評価の対象として見ていきます。

授業計画（8回目から15回目）

⑧アーティストのバックダンサーがよく踊っているジャンルです。HIPHOP との違いを知って踊り分けをしていきます。

⑨体の使い方を覚えていきます。基本的には一緒ですがジャズの要素も入ってきます。

⑩表現方法を覚えていきます。JAZZ の要素を取り入れて繊細に踊ることを心掛けていきます。

⑪アクセントの取り方を覚えていきます。HIPHOP の取り方とは違うの使い分けが出来るようにしていきます。

⑫HIPHOP JAZZ の振り付けを覚える力をつけていきます。ただ覚えるのではなく特徴を掴む事が大切です。

⑬コンビネーションを覚えたら HIPHOP か JAZZ のどちらかに偏った踊り方にならないように気をつけます。

⑭音に対するアプローチや曲のイメージ、感情表現も考えながら踊っていきます。もちろんジャンルも考えながらです。

⑮コンビネーションを覚えて発表をします。HIPHOP JAZZ の特性を理解して表現していきます。

期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

「HIPHOP JAZZ」の踊り方を理解して HIPHOP との違いを表現できているかをポイントとします。振付を正確に取り、曲の表現や振付の意図を理解しているかもポイントとします。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ヒップホップⅣ
担当講師名	山崎拓也
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

2年間の集大成である「卒業公演」に向けて体作りを継続し、体の使い方、振りの覚え方、表現の仕方など、全てにおいてバランスよくレベルアップをしていきます。

授業内容

1年生の時に学んだ事を再確認していきます。常に体全体でリズムを取る事を努力していき、動きに流れを作っていきます。また、ヒップホップダンスをベースにジャズダンスの要素を取り入れたヒップホップジャズも学んでいきジャンルの幅を広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

細かいところまで自分の動きを確認していき無駄な動きが無く、尚且つオリジナリティのあるダンスを出来るようになっていきます。卒業公演の振付はリハーサルを想定して行います。振りを早く自分の物にして踊り込みをしていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①今一度自分のリズム取りの見直しをしてトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上と応用を覚えます。
- ②表現の仕方を確認していきます。制限を設けても自分で与えられた表現を出せるか研究していきます。
- ③1年生からここまでに習ってきたステップの確認とそこからのバリエーションを研究していきます。正確なリズムも考えながら行っていきます。
- ④どのようにすれば振付を覚えるスピードを上げられるか覚え方の工夫を考えて振り取りに臨みます。
- ⑤振付の意図を理解して自分よがりのダンスにならないように意識して振付者の伝えたい表現を出来るようにしていきます。
- ⑥体の全ての箇所に神経を行き渡らせ全身で踊るようにしていきます。大きく踊ることと雑に踊ることの違いがわかるようにしていきます。
- ⑦コンビネーションを覚えて発表します。全身を使って振付を覚えて細かいところまで見落とさないようにします。

中間試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

卒業公演の振付に入る前の最終確認と考え、ここまでに習ってきた体の使い方、音楽の表現、振付の意図を理解しているかをポイントとします。もちろん正確に踊ることを大前提とします。

授業計画（8回目から15回目）

⑧振付に入る前に振付と曲のイメージを伝えます。そこからイメージを膨らませていき振付に入っていきます。

⑨リハーサルとして行うので少ない振り写しで素早く正確に振付を覚えて細かいところまでこだわっていきます。

⑩手の出し方や角度まで細かくチェックしていきます。自分の形を鏡で確認をして鏡無しでも動かしているか確認していきます。

⑪全員で振りの確認をしていきます。手の出し方や角度が全員で揃っているか確認していきます。

⑫作品の踊り込みをしていきます。出来ない箇所が無くなるまで繰り返し練習を行い完成度を上げていきます。

⑬2年間で学んだ事を作品に反映させていきます。また全員で作品に対するモチベーションを上げて気持ちを高めていきます。

⑭衣装を着て全員で踊り、動画撮影をして客観的に見て足りないところ発見して直しを行います。

⑮卒業公演の作品を踊ります。最後の試験なので悔いのないように踊りきるようにします。

期末試験評価方法・評価基準

出席 30%、試験 50%、平常点 20%とします。

2年間で学んできた全ての事を理解して実力として反映できているかをポイントとしていきます。また卒業公演の作品の中で全員と協力し合い、作品の完成度を上げていく努力を行っていたかもポイントとします。

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	舞台制作研究Ⅲ
担当講師名	井上 仁司
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

東宝ミュージカルなど 60 本以上に出演し、ミュージカル、テーマパーク、ジャニーズの振付師として活躍した実務経験のある講師が授業を担当します。

授業内容

1 年次に実施した「学生制作作品」をさらに発展させた創作することを目標とします。企画・構成・演出・など製作面を供していき、業界での即戦力を育成します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分たちの手で完成度の高いオリジナル作品を制作できるようになります。劇団などからの求人が見込めます。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①学生制作作品前期発表に向けて作品の内容を発案し、ディスカッションしていきます。
- ②それぞれ発案したアイデアをプレゼンテーションし制作する「作品候補」を絞り込みます。
- ③決定した「作品」に関して具体的は内容を一つ一つ組み立てていきます。スタッフも選出します。
- ④上演脚本の作業とそれに合わせた演出プランを決めていきます。各スタッフの作業を決定していきます。
- ⑤演出、脚本、選曲、振付、道具、衣装など、それぞれのスタッフがグループに分かれてスタッフワークを進めていきます。
- ⑥構成が出来上がれば、いよいよ配役を進めていきます。配役が決定すれば香盤表を作成し、各自が把握します。
- ⑦発表会当日までのリハーサルのスケジュールを各スタッフのリーダーで会議してスケジュールを発表します。

中間試験評価方法・評価基準

活発な意見交換や協力体制ができているか。遅刻や無断欠席などないか。
授業態度 50%、出席率 50%

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧キャストされた配役での脚本の本読み、構成台本の確認など踏まえ各シーンをイメージしていきます。
- ⑨選曲されたそれぞれのナンバーの歌稽古など、スケジュールに沿って進行していきます。
- ⑩各ナンバーで振付に入ります。様々なジャンルのダンスができるように各自が準備します。
- ⑪衣装系のプランによって衣装を準備し、衣装合わせ、衣装パレードなど行います。演出プランと合わない場合は変更します。
- ⑫衣装付き通しを行い、終了後には問題点を洗い出します。
- ⑬大道具やセットの位置を実際の教室で決めていきます。これに合わせて立ち位置など固定していきます。
- ⑭本番を想定しながらの衣装付き通し稽古です。上演時間なども考慮しながら運営していきます。
- ⑮学生制作作品前期発表会です。搬入、搬出、客入れから客出しまで納得いく作品になったか全員で合評会です。

期末試験評価方法・評価基準

自分の仕事、パフォーマンスは納得に行くものになったか。
授業態度 50%、出席率 50%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	舞台制作研究IV
担当講師名	井上 仁司
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

東宝ミュージカルなど 60 本以上に出演、ミュージカル、テーマパーク、ジャニーズの振付師として活躍した実務経験がある講師が担当します。

授業内容

2 年間の集大成となる「卒業制作作品」を制作し発表となります。
企画段階では積極的に意見交換し、予定通りの進行ができるか全員で協力します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分の手でナンバーを作れるようになります。
業界（特に劇団などには大きなアピールとなります。）

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ①卒業公演に向けた「学資最後の作品」の準備を進めます。
- ②作品のタイトルや作品の持っているメッセージなどイメージして意見を出し合います。
- ③大まかな方向性が決まれば、スタッフ決めて作品の構成を作っていきます。
- ④学生最後の作品として「見る人に何を伝えたいか、何が必要なのかを話し合っていきます。
- ⑤全員が何らかのスタッフを兼ねます。
- ⑥ストーリーや構成に合わせた配役を決め、香盤表を作成しマイクの本数なども確認していきます。
- ⑦卒業公演本番までのスケジュールを把握したうえでリハーサルの手順やスケジュールを立てます。

中間試験評価方法・評価基準

遅刻や無断欠席はないか、スケジュール通りに進行しているか。協力体制はできているか。

授業態度 50%,出席率 50%

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧脚本の読み合わせ。構成台本の読み合わせを行い、作品のイメージを共有します。
- ⑨選曲ができたナンバーからカラオケや楽譜の手配、歌稽古を進めていきます。
- ⑩歌稽古が終了したナンバーから順に振付、ステージングを始めていきます。

- ⑪振付、ステージングとほぼ同時期に演出プランに合わせた衣装デザイン、小道具制作を始めていきます。
- ⑫劇場、ホールサイズ、キャパに合わせて稽古場を場ミリして問題ないかをチェックします。
- ⑬衣装を着けて実際に通し稽古実施し録画します。問題点を探して改善していきます。
- ⑭搬出、積み込み、作品に必要な道具や機材、衣装など搬入しプロのスタッフと照明合わせです。
- ⑮納得がいく作品が全員の協力でできたのか、観客の皆さんが判断してくれます。

期末試験評価方法・評価基準

自分の仕事が責任をもって最後までできたか。決して「自己満足」にならない作品となったか。

授業態度 50%,出席率 50%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加する。あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	パフォーマンスプレゼンテーションⅢ
担当講師名	井上 仁司
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

東宝ミュージカル他、60本以上の作品に出演し、ミュージカル、テーマパーク、ジャニーズの振付師として活躍した実務経験がある講師が担当します。

授業内容

自分が思い描く将来に向けて対オーディション対策として、ブラッシュアップされたソロパフォーマンスを発表します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自分が思い描く将来に向けて対オーディション対策として、セルフプレゼンテーション能力を磨き上げます。
オーディション会場で自分の力が出せるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①シアターゲームを通じて、お互いのコミュニケーション力を高めます。
- ②「活舌」を意識し、与えられたテキストを暗記して反復練習を繰り返します。
- ③暗記したテキストを正確に、早く実演できるように反復練習を繰り返します。
- ④「外郎売」の発表。早口言葉を正確に発表します。
- ⑤「アメリカン・ジョーク」を学び、自分のパフォーマンスに役立てます。
- ⑥自分の特技は何かを追究し、人前で発表できるように磨き上げます。
- ⑦「プレゼンテーション」とは何かを学びます。

中間試験評価方法・評価基準

自分の魅力が発見できたか、自分の特技が100%の完成度で発表できるようになったか。
人の意見を素直に聞き、自分のパフォーマンスに取り入れることができたか。
授業態度 50%,出席率 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧3～5分程度のソロパフォーマンスの発表。プランを立ててしっかりと準備します。
- ⑨3～5分程度のソロパフォーマンスの発表。プランを立ててしっかりと準備します。

- ⑩3～5分程度のソロパフォーマンスの発表。プランを立ててしっかりと準備します。
- ⑪3～5分程度のソロパフォーマンスの発表。プランを立ててしっかりと準備します。
- ⑫3～5分程度のソロパフォーマンスの発表。プランを立ててしっかりと準備します。
- ⑬3～5分程度のソロパフォーマンスの発表。プランを立ててしっかりと準備します。
- ⑭3～5分程度のソロパフォーマンスの発表。プランを立ててしっかりと準備します。
- ⑮3～5分程度のソロパフォーマンスの発表。プランを立ててしっかりと準備します。

期末試験評価方法・評価基準

ソロパフォーマンスの自己達成度、それに対しての今後の課題を発見することができたか。人の意見を積極的に取り入れ自分のパフォーマンスに取り入れることができたか。
授業態度 50%,出席率 50%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においてはZOOMを使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroomにテキストや課題が添付されます。
ミーティングで授業に参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	パフォーマンスプレゼンテーションⅣ
担当講師名	井上 仁司
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

東宝ミュージカルなど60本以上に出演し、ミュージカル、テーマパークパーク、ジャニーズの振付師として活躍した実務経験がある講師が担当します。

授業内容

いよいよ実際のオーディションに向けての「プレゼンテーション」を学びます。最終審査やプロダクション面接、オンラインオーディションに向けてのスキルや一般常識を身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

オーディションの最終段階で「審査側に好印象を与える」ポイントを学び、自分のカプラスアルファが身につく、セルフプレゼンテーションができるようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ②パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ③パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ④パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑤パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑥パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑦パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。

中間試験評価方法・評価基準

スケジュール通りにパフォーマンスを発表できたか。自己採点できたか。

授業への取り組み方など総合的に評価します。

授業態度 50%,出席率 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑨パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑩パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。

- ⑪パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑫パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑬パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑭パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。
- ⑮パフォーマンスの前に自己アピールを入れたプレゼンテーションを発表します。

期末試験評価方法・評価基準

思いついたアイデアが正確に表現できたか。自分をアピールするためには何が必要だったか。これらを含め、将来につながる、「パフォーマンスプレゼンテーション」ができたか。授業に取り組む姿勢を総合的に評価します。

授業態度 50%,出席率 50%

特記事項

※授業はあくまで対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を使用した遠隔授業も取り入れます。Google Classroom にテキストや課題が添付されます。ミーティングに参加、あるいは授業録画を視聴することで出席となります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ソルフェージュⅢ
担当講師名	小笠原 貞宗
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、音楽大学卒業後、ピアノ奏者としての演奏歴35年に及び、音楽大学受験生の指導歴も多く、当校ではソルフェージュ担当を長く勤めています。

授業内容

1年次（ソルフェージュⅠ・Ⅱ）で習得した基礎は、再確認が必要です。まず楽典の基礎知識、読譜力をさらに向上させ、並行して実際の楽曲（視唱課題、ミュージカルナンバー等）の音取り・楽曲理解へ。その過程を通じて、音楽の面白さ、深さを学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

特に「音程」「リズム」の基礎はゆるがせにできません。第1クォーターで、楽典の基礎の復習も兼ね、第2クォーターでは、新曲視唱、調判定、旋律背後に想定される和音を想起する能力と初見力を大目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①完全1度から全ての音程（長短・完全・増減）を把握し、聴いてわかる、見て歌える、の両立を目指します。
- ②シンコペーション、タイ、3連符、休符等の正しい記譜法を学びます。正しい記譜法には意味があります。
- ③なぜ移動ド唱法も習得するべきなのかを学びます。数回程度の練習では身に付かないのが移動ド唱法です。
- ④各自の苦手の調、調号を克服します。調は色彩にも譬えられます。全ての調を自在に使いこなしましょう。
- ⑤長三和音、短三和音、増三和音、減三和音の区別を再度学びます。和音にも色があるので耳を鍛えましょう。
- ⑥トニック、ドミナント、サブドミナントの組み合わせ、カデンツを学びます。西洋音楽の文法に当たります。
- ⑦中間試験：予告されていた短い課題（全調対応で）を歌う。

中間試験評価方法・評価基準

与えられた課題をしっかりと習得できたかを確認します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧新曲視唱① 調性、リズム、音程の少し難しい新曲に挑戦します。
- ⑨新曲視唱② 旋律の背後にある和声進行にも気付く耳作り。
- ⑩シーンスタディの課題曲の構成、作曲者が込めた音楽的意図を読み取る。
- ⑪聴音訓練① 旋律聴音の各調（#♭三つくらいまで）、さまざまな拍子に取り組みます。
- ⑫聴音訓練② リズム聴音は、記憶してから記譜する方法になります。
- ⑬移調譜作成の方法を確認します。異名同音の問題も考えます。
- ⑭次週実施の試験と同程度レベルの課題で力試しをして備えます。
- ⑮期末試験：筆記試験となります。全3問（予定）。

期末試験評価方法・評価基準

旋律聴音、リズム聴音、移調課題のそれぞれについて、どれくらい正しく把握し解答できるかを審査します。

特記事項

尚、感染症などによる緊急事態の場合には、オンライン上での授業も考慮しますが、その場合は、講義中心の形態になりますので、ご了承下さい。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ソルフェージュⅢ
担当講師名	松山 由佳
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

1年次（ソルフェージュⅠ・Ⅱ）で習得した基礎は、再確認が必要です。まず楽典の基礎知識、読譜力をさらに向上させ、並行して実際の楽曲（視唱課題、ミュージカルナンバー等）の音取り・楽曲理解へ。その過程を通じて、音楽の面白さ、深さを学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1クォーターでは、音楽の基礎知識の復習をし、音程、リズム、拍子、音楽記号の完璧な理解、2クォーターでは、ミュージカルナンバーを使って実際に音程、リズム、音楽記号の正確な歌唱を目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①毎日繰り返し練習する音程メソッドを覚え、体にインプットしましょう。
- ②鍵盤を弾きながら、正しい音程を歌えるようにします。
- ③音価を理解し、正確なリズムで歌えるようにします。
- ④音楽を進んでいく時間の中で歌うことで拍子感をインプットします。
- ⑤音階をもう一度復習し、長調、短調、調号を理解します。
- ⑥総復習、全ての知識を総合して新曲視唱を行います。
- ⑦音程メソッド課題、およびリズム打ち、新曲視唱を歌う。

中間試験評価方法・評価基準

平常点は授業への積極性、向上心を評価します。また、試験は、実技試験とし、与えられた課題を習得できたかを評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧楽譜の読み方の復習です。表情記号、強弱記号等楽譜の隅々まで注意を払い、歌ってみます。
- ⑨オンビート、オフビートを体で感じ、音楽のグルーブ感をつかんだ唱法を学びます。
- ⑩シンコペーションを理解し、歌ってみましょう。
- ⑪3連符を理解し、シャッフルのリズム打ちと聴音課題に取り組みます。
- ⑫3連譜を理解し、スウィングして歌ってみましょう。
- ⑬様々なリズムパターンを聞き取り、歌えるようにします。
- ⑭ミュージカルナンバーを使って、複雑なリズムパターンに挑戦します。
- ⑮事前に指定した1曲を階名で歌う実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

音楽のリズム、ビートを感覚だけではなく理論でも理解し、楽譜に記されている音楽記号を正しく読み取り、表現することができるかを評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

授業は対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔授業で対応いたします。教材となる楽譜、音源などはGoogle Classroomで共有致します。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ソルフェージュⅣ
担当講師名	松山 由佳
学期	秋
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、音楽大学卒業後、ピアノ奏者としての演奏歴35年に及び、音楽大学受験生の指導歴も多く、当校ではソルフェージュ担当を長く勤めています。

授業内容

2年次の後半は、主として優れた音楽作品（クラシック、ミュージカル等）をどう咀嚼し味わったらいいか、さらに簡単な旋律とそれに合うコード進行の作成といった、創作レベルにも踏み込んでいきます。また、CD等の音源を耳コピーするなどの実践的方法にも触れていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ソルフェージュ能力には性質上、これでよいという上限がありません。より高度な、より複雑な時間のかかるものに取り組むことで実力が向上します。自分の音楽生活の充実のための作曲、耳コピー等を楽しみながら継続する経験を大事にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①二声課題① 二つの声部を同時に把握する能力に目覚める。
- ②二声課題② 片方を鍵盤楽器で弾き、もう片方を声に出して歌うトレーニングの実践。
- ③耳コピー実践① 選曲は自分の好きな曲で、何度聴いても飽きないものを只管聴いて採譜します。
- ④耳コピー実践② 和音、バスラインまで聴こえるようになるまで、とことん反復します。
- ⑤シーンスタディの課題曲を子細に分析し理解する。
- ⑥聴音訓練 旋律・リズムを聴き取る実力を維持します。
- ⑦中間試験：予告されていた短い課題（全調対応で）を歌う。

中間試験評価方法・評価基準

与えられた課題をしっかりと習得できたかを確認します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧旋律作曲① コード進行が決められた中で、4小節×2＝8小節の旋律を作る方法。
- ⑨旋律作曲② 和声音・非和声音の自覚、浮かんだ動機を大事に発展させる方法。
- ⑩シーンスタディの課題曲を子細に分析し理解する。
- ⑪聴音訓練① 音程・リズムの正しい記譜法を追求する。リズム聴音は記憶してから記譜。
- ⑫聴音訓練② 転調・借用和音の可能性にも着眼する。
- ⑬聴音訓練③ 弱起の開始、耳慣れない進行にも対応できるように能力を高める。
- ⑭次週実施の試験と同程度レベルの課題で力試しをして備えます。
- ⑮期末試験：筆記試験となります。全3問（予定）。

期末試験評価方法・評価基準

旋律聴音、リズム聴音、移調課題のそれぞれについて、どれくらい正しく把握し解答できるかを審査します。

特記事項

尚、感染症などによる緊急事態の場合には、オンライン上での授業も考慮しますが、その場合は、講義中心の形態になりますので、ご了承下さい。

学科名	ミュージカル学科
科目名	ソルフェージュⅣ
担当講師名	松山 由佳
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は大手テーマパークのシンガーやクラシック・ミュージカル業界での歌手、ヴォイストレーナーの実務経験を持ちます。

授業内容

コードとコード進行の理解、そして聞く力を強化し、サウンド感を育てましょう。更に、並行して音楽基礎訓練も行い、実際のミュージカルナンバーを使って正確な音程、リズム、そのサウンドから感じ取れる色合いをどう表現するかという事に挑戦します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3クォーターでは、コードとコード進行を理解し、耳を育て、コードを弾きながら歌うことを、4クォーターでは、2年間の集大成となるような、理論にもとづいた正確な音程やリズム、サウンド感のある歌唱の習得を目標にします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①基本的なコードを理解し、コードネームを完璧に覚え、鍵盤で弾いてみます。
- ②コードを弾きながら、メロディラインを正しい音程で歌えるようにします。
- ③セブンスを覚え、実際にハーモニーを歌い、奥行きのあるサウンド感を体感します。
- ④分数コードを理解し、ベースラインの動きを理解し、実際にハーモニーパートとベースパートを歌います。
- ⑤コード進行のルールを学び、メロディにコードをつけて弾きながら歌ってみます。
- ⑥アカペラでセブンスコードをベース、ハーモニーとメロディパートに分かれて歌います。
- ⑦グループに分かれ、アカペラで歌唱する実技試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

平常点は授業への積極性、向上心を評価します。また、試験は、実技試験とし、与えられた課題を習得できたかを評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧借用和音について学び、そのコード進行から独特の色合いを感じとりましょう。
- ⑨転調について更に学び、スムーズな転調パターンを楽曲の中で理解します。
- ⑩アニソンや Jpop によくある唐突な転調を歌ってみます。
- ⑪移調について復習。カラオケでキーチェンジをする感覚で移調し歌ってみます。
- ⑫移調した曲を正確に記譜して、移調のしくみを更に理解します。
- ⑬2年間で学んだ全ての知識を生かし、伴奏つき新曲視唱を行います。
- ⑭音楽理論に紐付けた解釈をし、その楽曲のアーティキュレーションを考え歌います。
- ⑮総復習の実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

音楽のメロディ、リズム、ハーモニー、発想記号を読み取り、そこから作曲家の意図を読み取り、音楽をどのように体現するかを評価します。

出席：20% 平常点：20% 試験：60%

特記事項

授業は対面式で行いますが、特別な状況下においては ZOOM を用いた遠隔授業で対応いたします。教材となる楽譜、音源などはGoogle Classroomで共有致します。

学科名	ミュージカル学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①挨拶、自己紹介
- ②楽器紹介Ⅰ
- ③楽器紹介Ⅱ
- ④どんな音楽が好きですか？
- ⑤作曲家&作詞家紹介
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音楽用語
- ⑨海外旅行Ⅰ
- ⑩海外旅行Ⅱ
- ⑪発表会 スピーチⅠ
- ⑫発表会 スピーチⅡ
- ⑬音楽祭紹介Ⅰ
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	ミュージカル学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	ツアイ・ペイルン
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①日常英会話（学校）
- ②将来の計画
- ③音楽の履歴を書く
- ④音楽のプロフィールを書
- ⑤リハーサル演奏技法
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧面接(大学)
- ⑨面接(仕事)
- ⑩演奏会感想
- ⑪コンサート紹介Ⅰ
- ⑫コンサート紹介Ⅱ
- ⑬マスタークラス
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	ミュージカル学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音楽史と西洋言語の関係性概論：教会音楽の樹立からポップミュージックの発展に至るまでの音楽の歴史と、西洋言語の密接な関係性
- ③ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性
- ④ 発音(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ⑤ 発音(2)：子音と母音の個別発音演習
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(1)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑨ コミュニケーション演習(2)：同上。回数を重ねることで徐々に英語のみでのゲームの成立を目指します
- ⑩ 英文法(1)：冠詞および過去形・過去分詞の違い
- ⑪ 英文法(2)：前置詞および句動詞
- ⑫ 総復習：夏期休暇明けのため、第1クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等进行评估します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	ミュージカル学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音節(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ③ 音節(2)：音節の数え方および発音実習
- ④ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性。春学期に引き続き、最重要テーマのため復習します
- ⑤ コミュニケーション演習(3)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。
口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(4)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑨ クリスマスキャロル歌唱：西洋において重要な音楽文化であるクリスマスキャロルについての説明と歌唱
- ⑩ 総復習：冬期休暇明けのため、第3クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑪ コミュニケーション演習(5)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑫ コミュニケーション演習(6)：同上。より大人数でのグループ分けによるディスカッション形式でのゲームの成立を目標とします
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

秋学期は春学期から継続しての受講者と新規受講者が混在するため、カリキュラムが大幅に変更される可能性があります。

学科名	ミュージカル学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Nice to meet you! 自分から挨拶してみよう
- ②I'm from Japan. 自分の出身地を紹介しよう
- ③What's her name? 友だちにインタビューしてみよう
- ④Where do you live? その人のことを一言で表してみよう
- ⑤She is interesting. その人の特徴を伝えよう
- ⑥This is my mother. 自分の大切な人やものを紹介しよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分アピールの発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Three pizzas, please. いくつ欲しいのかを伝えよう

- ⑨How much is this bag? 買い物をしてみよう
- ⑩Where are my keys? 家の中に何があるか教えよう
- ⑪Is there a bus to the airport? 行きたい場所をたずねてみよう
- ⑫What time does the library open? 時間を伝えよう
- ⑬I go shopping on weekends. 週末には何をするかを伝えよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、週末の予定を紹介しよう

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	ミュージカル学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Where do you work? どんな職業に就きたいかを伝えよう
- ②I do karaoke on Wednesdays. 普段していることを話してみよう
- ③I can play baseball. できることができるのかを伝えよう
- ④I like Italian food. 簡単に作り方を教えよう
- ⑤Can you call back later? 電話をしてみよう
- ⑥Would you like to go to the movies? 上手な返答の仕方を考えよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分をアピールする発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Please don't play loud music. ルールについて話してみよう
- ⑨I have a headache. 症状を伝えよう
- ⑩I'm going to go sightseeing. 休暇に何をするか話してみよう
- ⑪How was your vacation? 休暇の思い出を伝えよう
- ⑫How much do you spend each month? お金の使い方を話してみよう
- ⑬How do I get to the bank? わかりやすく道案内しよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、休暇の思い出を紹介します

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	ミュージカル学科
科目名	インターンシップⅢ
担当講師名	井上 仁司
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認めた外部公演、メディア、等への外部出演、学外活動、企業研修を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各々の進路を踏まえた学外活動、企業研修を体験することにより、卒業後の進路への準備、オーディション等の合格レベルに達する技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

外部活動に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、また、オーディション結果等を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

外部活動に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、また、オーディション結果等を評価します。学生諸活動届、企業研修日誌等の書類の提出が必要となります。

特記事項

特別な状況下においては、学外活動や企業研修が実施されない場合もありますのでその点だけご了承ください。

学科名	ミュージカル学科
科目名	インターンシップⅣ
担当講師名	井上 仁司
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認めた外部公演、メディア、等への外部出演、学外活動、企業研修を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

各々の進路を踏まえた学外活動、企業研修を体験することにより、卒業後の進路への準備、オーディション等の合格レベルに達する技術の習得を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

中間試験評価方法・評価基準

外部活動に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、また、オーディション結果等を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

期末試験評価方法・評価基準

外部活動に対しての積極性、向上心、責任感、仕事に対する姿勢、また、オーディション結果等を評価します

特記事項

特別な状況下においては、学外活動や企業研修が実施されない場合もありますのでその点だけご了承ください。